

奈川地区 路線バス再編に係る説明会

松本市 交通部 公共交通課
電 話 : 0263-34-3033
F A X : 0263-34-3202
メー ル : k-koutsu@city.matsumoto.lg.jp



- 1 新制度の概要
- 2 再編する路線
- 3 今後のスケジュール

(参考 1 - 1) 新旧バス交通体系図

(参考 2 - 1) 現状を維持する路線



1 新制度の概要

2 再編する路線

3 今後のスケジュール

(参考1-1) 新旧バス交通体系図

(参考2-1) 現状を維持する路線



1 新制度の概要

○ 定義

- 路線バスを「社会インフラ」と位置付け
- 市が、運行資金を担保し、重要な3要素（ルート／運行本数(運行時間帯含む)／運賃水準)を設定するなど、強く関与して市民の足を確保 <民間事業者経営からの転換>
- 複数年協定で路線バス事業運営の安定化を図り、将来にわたって持続可能な交通サービスを提供

○ 運行制度

項目	新制度
対象範囲	エリア全体（特定1者と一括協定） <ul style="list-style-type: none">• 一部の路線については、別事業者への外部委託を許容 ※ 外部委託の際は、市に選定経過を報告
協定期間	5年間 (車両等の設備投資や運転手の採用計画が立てやすいため)
車両の保有	運行事業者 (車両調達と整備費の最適化が可能なため)
インセンティブ	想定運行経費と想定運行収入をあらかじめ設定することで、運行事業者に「インセンティブ」と「リスク負担」を与える設計
官民の役割分担	①市 運行水準の設定（ルート・起終点、1日の運行本数及び運賃水準） ②運行事業者 運行、タイヤ・仕業の設定、車両調達・修繕・管理及び事故対応

(参考 1 - 1) 新旧バス交通体系図

新旧バス交通体系図

	【現在のバス】	運行主体	運行事業者	車両保有	道路運送法の位置付け	運行の手続き	費用の考え方
交通事業者が運行	アルピコ交通 自主路線 信大横田(横田信大)循環線、美ヶ原温泉線、北市内線、並柳団地線、寿台線、内田線(一部)、四賀線(一部)、山形線、空港・朝日線(一部)、岡田線、浅間線、新浅間線、松原線、大久保工場団地線、鹿教湯温泉線	アルピコ交通	アルピコ交通	アルピコ交通	一般旅客自動車運送事業(第4条)	アルピコ交通が運輸局へ申請	アルピコ交通が自主運行
	アルピコ交通 協議路線 四賀線(一部)、内田線(一部)、稲核線、アルプス公園線、空港・朝日線(一部)					松本市	松本市が赤字補填
松本市が委託	タウンズニーカー 北コース、東コース、南コース、西コース 南部循環線	松本市	松本市	松本市	松本地域公共交通会議で協議	松本市が赤字補填	松本市が赤字補填
	西部地域コミュニティバス A(島内・新村)線、B(南松本・新村)線、C(梓川・波田)線、D(村井・波田)線、E(平田・波田)線					松本市・山形村	松本市・山形村が赤字補填
松本市が運行	市営バス 四賀線、奈川線	松本市	松本市	松本市	自家用有償旅客運送(第78条)	市が県へ申請	松本市が運行を委託
地域が運行	地域バス ほしみ線、入山辺線、中山線、波田循環バス、浅間・大村線、島内川東乗合タクシー	地域	民間へ委託	運行事業者	第4条	運行事業者が運輸局へ申請	松本市が9割を補助

【凡例】

変更箇所



持続可能な新たなモビリティサービス		路線バスのネットワーク連携の範囲					
【R5.4以降】		運行主体	運行事業者	車両保有	道路運送法の位置付け	運行の手続き	費用の考え方
松本市と運行事業者の協定による運行	継承する路線 信大横田(横田信大)循環線、美ヶ原温泉線、北市内線、並柳団地線、寿台線、内田線、四賀線、山形線、空港・朝日線、岡田線、浅間線、新浅間線、松原線、大久保工場団地線、アルプス公園線、鹿教湯温泉線	松本市・山形村・朝日村	協定・10月以降はプロポーザル	運行事業者	一般旅客自動車運送事業(第4条)	松本地域公共交通会議で協議	運行事業者が運輸局へ申請 松本市が負担金を支払い 想定負担額との差分を市と事業者で分け合う
	タウンズニーカー 北コース、東コース、南コース、(西コース統合) 南部循環線						
	西部地域コミュニティバス A(島内・新村)線、B(南松本・新村)線、C(梓川・波田)線、D(村井・波田)線、(E線統合) 新規路線 南松本・平田線、平田・村井線						
松本市が運行	市営バス 四賀線、奈川線	松本市	松本市	松本市	自家用有償旅客運送(第78条)	市が県へ申請	松本市が運行を委託
地域が運行	地域バス ほしみ線、入山辺線、中山線、波田循環バス、浅間・大村線、島内川東乗合タクシー	地域	民間へ委託	運行事業者	第4条	運行事業者が運輸局へ申請	松本市が9割を補助
地域が運行	ラストワンマイル モデル地区(3地区程度)を構築			運行事業者			

1 新制度の概要

2 再編する路線

3 今後のスケジュール

(参考 1 - 1) 新旧バス交通体系図

(参考 2 - 1) 現状を維持する路線



2 再編する路線

○ 36路線のうち15路線を再編し、2路線を新設（R5.4～）

路線名		再編の概要
1	北市内線	<ul style="list-style-type: none"> 横田経由ルート（循環便）の減便
2	並柳団地線	<ul style="list-style-type: none"> 相澤病院を経由する系統の新設 バス車両の小型化
3	空港・朝日線	<ul style="list-style-type: none"> 上今井～下今井間の廃止
4	タウンスニーカー西コース	統合 <ul style="list-style-type: none"> タウンスニーカー西コースと西部地域コミュニティバスA線の統合 バス車両の小型化（朝の通勤時間帯を除く）
5	西部地域コミュニティバスA線	
6	西部地域コミュニティバスB線	統合 <ul style="list-style-type: none"> 西部地域コミュニティバスB線とE線の統合 神林出張所～新村駅間の廃止 アイシティ2 1～波田駅間の廃止
7	西部地域コミュニティバスE線	
8	西部地域コミュニティバスC線	<ul style="list-style-type: none"> J R 梓橋駅への接続 系統を八景山公民館～梓橋駅、波田駅～J R 梓橋駅に分割 既存のアイシティ2 1～波田駅方面は、西部地域コミュニティバスD線に統合
9	西部地域コミュニティバスD線	<ul style="list-style-type: none"> アイシティ2 1を基点に波田駅側と村井駅側に分割 朝夕のみ梓川高校方面への便を設定
10	市営バス四賀線	<ul style="list-style-type: none"> 明科駅～四賀支所間の日中一部の便を廃止し、デマンド運行時間を拡大 五常～四賀支所間の一部の便を廃止 会吉車庫～四賀支所間の一部の便を廃止 会吉方面の路線を朝夕で系統を分割
11	市営バス奈川線	統合 <ul style="list-style-type: none"> 市営バス奈川線と稲核線を統合 新島々～波田駅～八景山公民館間を廃止
12	稲核線	
13	松原線	<ul style="list-style-type: none"> 便数のみ変更（運行ルート変更なし） ※ 再編の概要は後述
14	山形線	
15	タウンスニーカー南コース	
新1	（仮称）南松本・平田線	<ul style="list-style-type: none"> 新設
新2	（仮称）平田・村井線	

市営バス奈川線、稲核線 【現在】



車両		
市営バス奈川線		稲核線
マイクロバス	通勤用	観光バスタイプ 大型バス
		

【R3年度 主要指標】
 年間利用者数 7,191人
 1便当たり利用者数 2.15人
 収支率 5%(R元)
 一人当たり経費 1,690円(R元)

凡例	
	市営バス奈川線
	稲核線

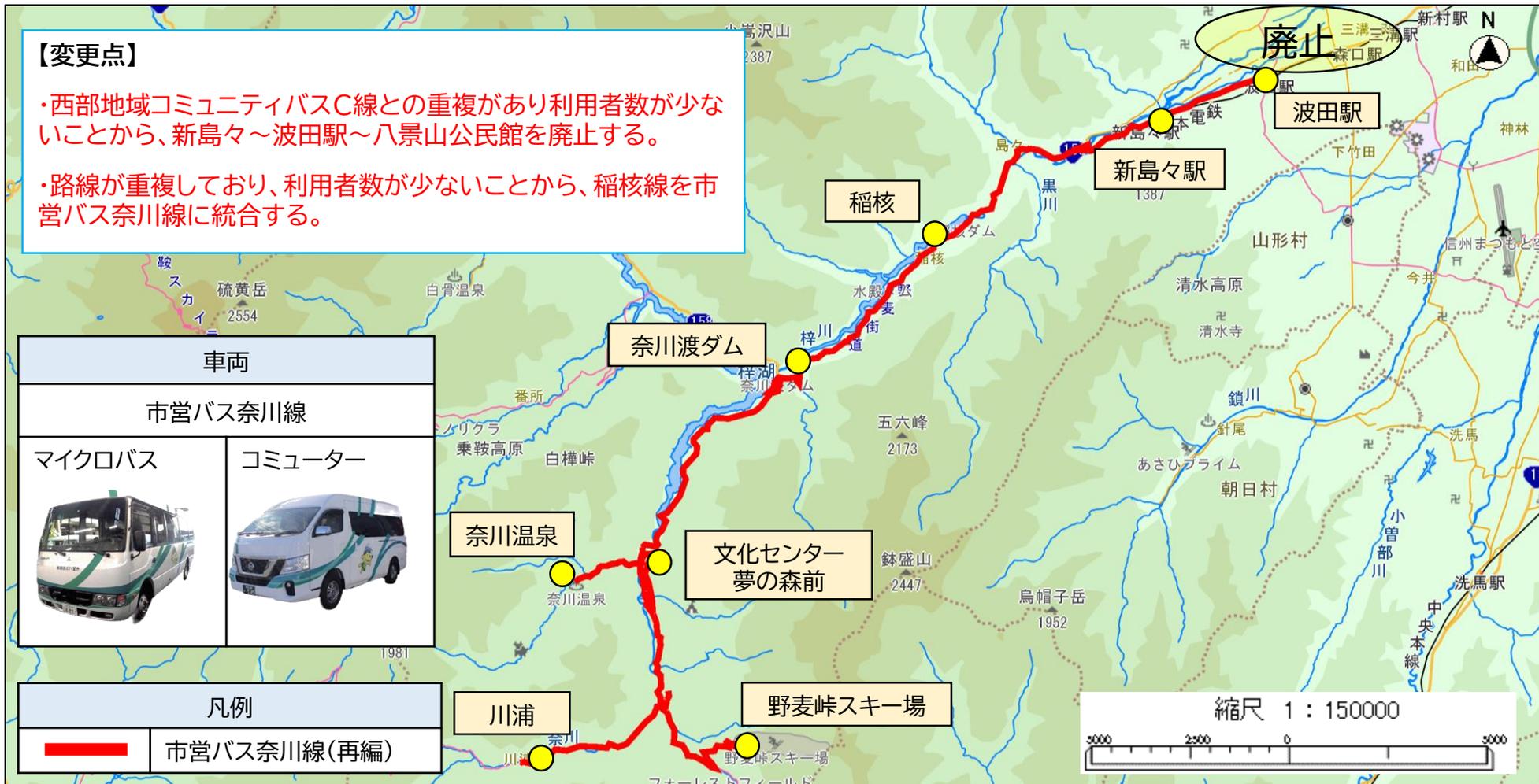
路線・系統名	往路復路	起点	主な経由地	終点	運行日	平日					土休日				
						便数/日	便数(朝)	便数(夕)	始発	終発	便数/日	便数(朝)	便数(夕)	始発	終発
系統1	往復	川浦	—	新島々駅	平日・土	7	2	2	6時台	18時台	1	—	1	—	17時台
系統2	片道	川浦	—	波田駅/八景山公園	平日・土	4	0	0	—	—	2	1	—	8時台	—
系統3	往復	学校前	—	奈川渡ダム	平日	4	1	1	7時台	18時台	0	—	—	—	—
計						15					3				

※朝は「6時～9時」、夕は「17時～20時」の間

市営バス奈川線 【再編後】

【変更点】

- ・西部地域コミュニティバスC線との重複があり利用者数が少ないことから、新島々～波田駅～八景山公民館を廃止する。
- ・路線が重複しており、利用者数が少ないことから、稲核線を市営バス奈川線に統合する。



車両	
市営バス奈川線	
マイクロバス	コミュニーター
	

凡例	
	市営バス奈川線(再編)

路線・系統名	往路復路	起点	主な経由地	終点	運行日	平日					土休日				
						便数/日	便数(朝)	便数(夕)	始発	終発	便数/日	便数(朝)	便数(夕)	始発	終発
系統1	往復	川浦	—	新島々駅	平日・土	7	2	2	6時台	18時台	1	—	1	—	17時台
系統2	片道	川浦	—	波田駅	平日・土	4	0	0	—	—	2	1	—	8時台	—
系統3	往復	学校前	—	奈川渡ダム	平日	4	1	1	7時台	18時台	0	—	—	—	—
計						15					3				

※朝は「6時～9時」、夕は「17時～20時」の間

2 再編する路線

○ 3路線は 便数を変更（※運行ルート変更なし）

路線名	再編の概要	便数		
		現在	再編後	差
松原線	<ul style="list-style-type: none">松原南～棚峯間の乗降者数が少ないため、減便	14	<u>10</u>	△4
山形線	<ul style="list-style-type: none">山形方面便日中午後の運行間隔が空いてしまうため、利便性を考慮し、増便	28	<u>32</u>	+4
タウンズニーカー 南コース	<ul style="list-style-type: none">並柳団地線を複系統化し、相澤病院方面へのルートを新設平日1便当たり平均乗車数が、5.8人と少ないため、減便（1時間あたり1本程度）	23	<u>13</u>	△10

(参考 2 - 1) 現状を維持する路線

○ 21 路線は 現状を維持

路線名			
1	信大横田循環線	12	四賀線
2	横田信大循環線	13	タウンズニーカー北コース
3	浅間線	14	タウンズニーカー東コース
4	新浅間線	15	南部循環線
5	美ヶ原温泉線	16	入山辺線
6	岡田線	17	中山線
7	鹿教湯温泉線	18	浅間・大村線
8	大久保工場団地線	19	ほしみ線
9	アルプス公園線	20	波田循環バス
10	寿台線	21	島内川東乗合タクシー
11	内田線		

※ 各路線の状況を考慮し、R5以降の見直しを検討

1 新制度の概要

2 再編する路線

3 今後のスケジュール

(参考 1 - 1) 新旧バス交通体系図

(参考 2 - 1) 現状を維持する路線



3 今後のスケジュール

○ R 5 年 4 月から 官民連携による運行をスタート

◆ R 5 年（2023年）4 月～9 月【6 カ月】

新たなルートの安全や持続性などの検証を行うため、市が全体の運行主体となり、現在の運行事業者と6カ月間の協定を締結し、官民連携による運行を開始

- 現運行事業者3者と市による複数者一括協定を締結
- 再編した新たなルート、運行水準
- 運賃は、現行どおり距離制運賃
- インセンティブ設定は、各運行事業者との協議により実施

◆ R 5 年（2023年）10 月～R 10（2028年）9 月【5 年間】

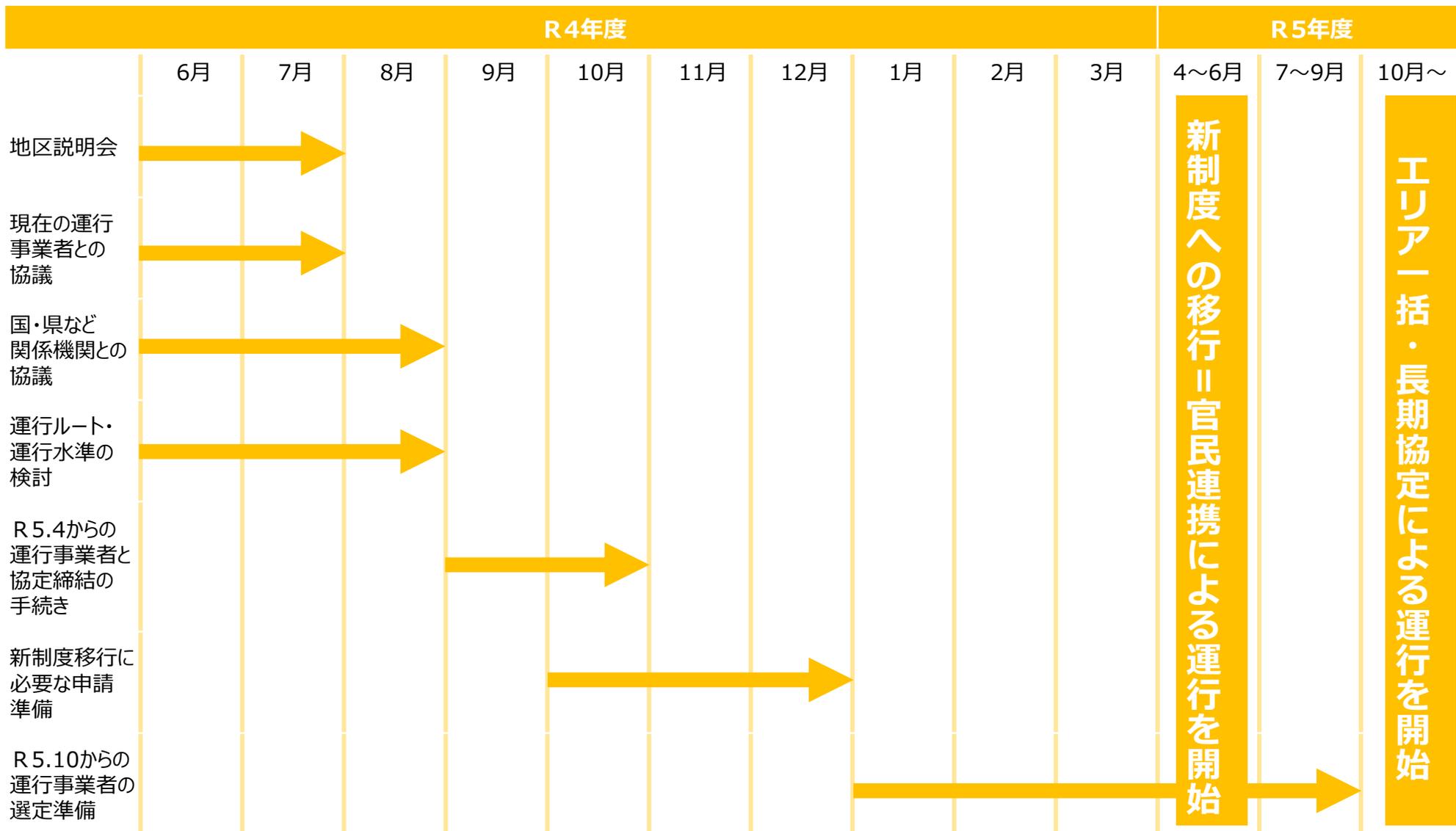
特定1者との一括協定による運行は、プロポーザルで決定する運行事業者と、バス事業の運輸年度の切替時期である令和5年10月から開始

- エリア一括・長期協定による運行
- 運行ルート、本数及び運賃は、R 5 年 4 月のものを継続
- インセンティブ設定は、運行経費と運行収入の想定を基に負担金の金額をあらかじめ設定し、事業者のリスクの負担に見合う利潤を許容

※ 各年度においてモニタリングを実施するとともに、新運賃体系の導入を検討

3 今後のスケジュール

○ R5年4月から 官民連携による運行をスタート



ご清聴いただき ありがとうございます



市営バス奈川線
令和3年度利用実績

1. 路線の概要

■路線



■地域の概要と路線の主な機能

- 市営バス奈川線は奈川地区から安曇地区を通過して波田地区までを運行している路線で、梓川地区八景山も運行しています。
- 安曇地区には、鉄道として上高地線が運行しており、新島々駅からは上高地線（バス）、稲核線などが運行しています。
- 奈川地区内の施設としては、地区の中心に奈川地域づくりセンターがあるほか奈川診療所があります。地区内には、生鮮食料品が購入できる商店がなく、地区外への買物移動の確保の重要性が高い地域です。地域の通院・買物の目的地としては、波田駅周辺に松本市立病院、デリシア波田駅前店が立地しています。
- 市営バス奈川線は地区外への移動として、松本中心市街地や波田駅周辺へのアクセスを担います。アクセス方法は、①奈川ダムで上高地線（バス）に乗り継ぐ、②新島々駅で上高地線に乗り継ぐ、③波田駅まで運行し、上高地線に乗り継ぐ3つの方法があります。
- 地区内の移動としては、日中の奈川診療所への通院移動のほか、朝夕の奈川小中学校へのスクールバス機能を担っています。

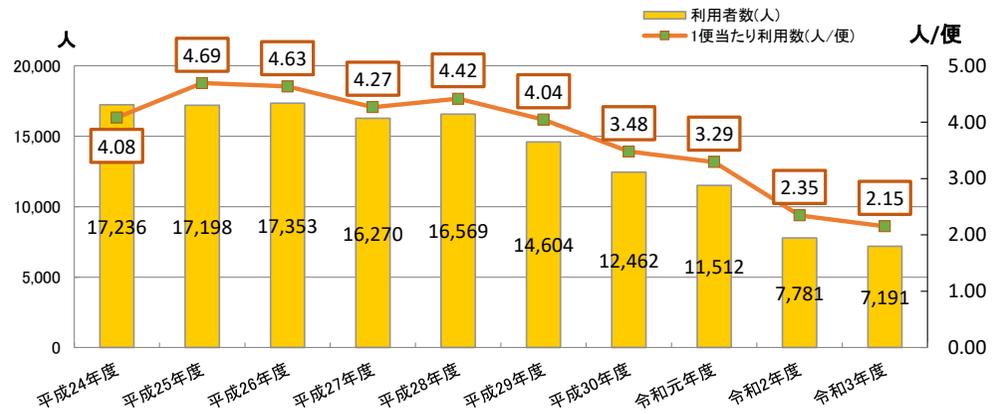
市営バス奈川線の主な機能

- 松本中心市街地への移動（通学・通勤・通院・買物等）（新島々駅、波田駅で乗継ぎ）
- 波田駅周辺への移動（通院・買物）
- 地域内移動（主に診療所への通院とスクール移動）

■利用状況の経年推移

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
利用者数(人)	17,236	17,198	17,353	16,270	16,569	14,604	12,462	11,512	7,781	7,191
運行便数(便)	-	-	3,746	3,814	3,751	3,611	3,583	3,497	3,318	3,341
1便当たり利用者数(人/便)	4.08	4.69	4.63	4.27	4.42	4.04	3.48	3.29	2.35	2.15
前年度比(%)										
利用者数		1.00	1.01	0.94	1.02	0.88	0.85	0.92	0.68	0.92
運行便数		-	-	1.02	0.98	0.96	0.99	0.98	0.95	1.01
1便当たり利用者数		1.15	0.99	0.92	1.04	0.92	0.86	0.95	0.71	0.92

平成24・25年度の1便あたりの利用者数は、各月の1便あたりの利用者数を平均している
平成30年10月からは休日便やスクール便など運行のなかった便は除いている



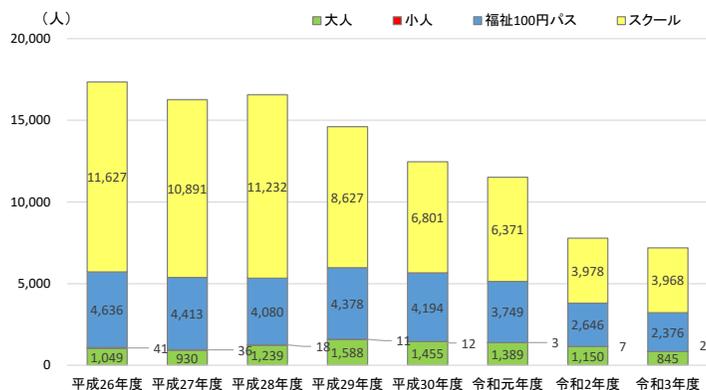
- 本年度の利用者数は7,191人、1便あたりの利用者数2.15人/便です。
- 昨年度の利用実績と比較すると利用者数は昨年度比92%となっています。
- 平成26年度以降、減少傾向が続いていましたが、令和2年度に新型コロナウイルスの影響で大きく利用が落ち込み、今年度はさらに厳しい状況となっています。

2. 属性別の利用傾向

■属性別利用者数の割合と推移

属性別利用者数:人
割合:%

	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	利用者数	割合	利用者数	割合	利用者数	割合										
大人	1,049	6.0%	930	5.7%	1,239	7.5%	1,588	10.9%	1,455	11.7%	1,389	12.1%	1,150	14.8%	845	11.8%
小人	41	0.2%	36	0.2%	18	0.1%	11	0.1%	12	0.1%	3	0.0%	7	0.1%	2	0.0%
福祉100円バス	4,636	26.7%	4,413	27.1%	4,080	24.6%	4,378	30.0%	4,194	33.7%	3,749	32.6%	2,646	34.0%	2,376	33.0%
一般利用	5,726	33.0%	5,379	33.1%	5,337	32.2%	5,977	40.9%	5,661	45.4%	5,141	44.7%	3,803	48.9%	3,223	44.8%
スクール	11,627	67.0%	10,891	66.9%	11,232	67.8%	8,627	59.1%	6,801	54.6%	6,371	53.3%	3,978	51.1%	3,968	55.2%
合計	17,353	100.0%	18,270	100.0%	16,569	100.0%	14,604	100.0%	12,462	100.0%	11,512	100.0%	7,781	100.0%	7,191	100.0%



	R2	R3	R3/R2
大人	1,150	845	73.5%
小人	7	2	28.6%
福祉100	2,646	2,376	89.8%
一般利用	3,803	3,223	84.7%
スクール利用	3,978	3,968	99.7%
合計	7,781	7,191	92.4%

- 奈川線の利用者は、スクール利用者が55.2%で半数以上を占めています。しかし、少子化とともにスクール利用者は年々減少しており、平成26年度の約3分の1程度にまで落ち込んでいます。
- 令和2年度に新型コロナウイルスの影響で全体的に利用が落ち込みましたが、特にスクール利用の減少幅が大きく、今年度も回復の兆しがみえません。

■運賃属性別利用者数の月別推移 (令和3年度)

属性別利用者数:人
1便あたり利用者数:人/便

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
大人	78	65	80	81	58	75	82	71	76	68	52	59
小人	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
福祉100円バス	273	203	219	196	184	179	200	193	228	135	136	230
一般利用	353	268	299	277	242	254	282	264	304	203	188	289
スクール	345	361	409	293	374	374	383	424	354	293	353	245
合計	698	629	708	570	376	628	665	688	658	496	541	534



- スクール利用が多いため、月ごとの利用者数は夏休みのある8月が最も少なくなっています。

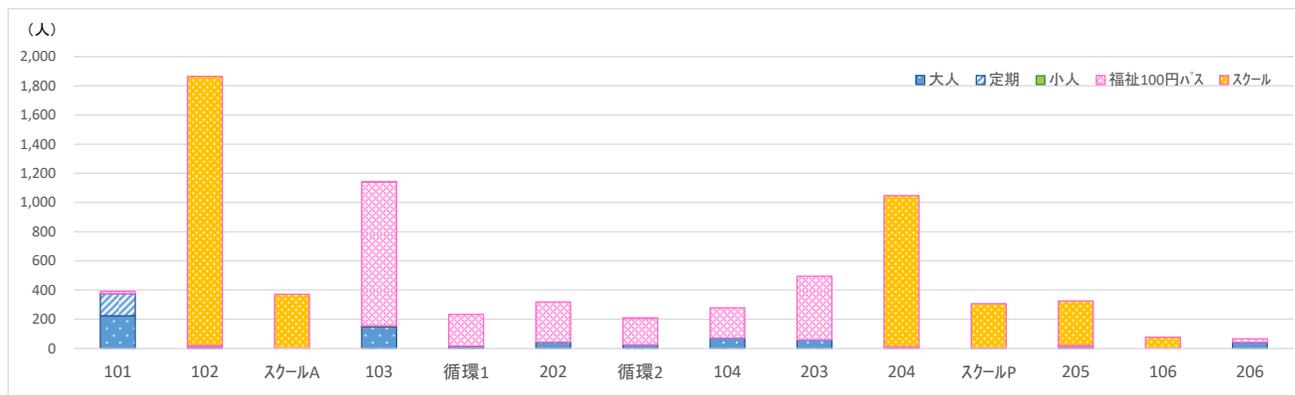
3. 便別の利用傾向 1

■便別利用者数

(1) 平日

属性	101	102	スクールA	103	循環1	202	循環2	104	203	204	スクールP	205	106	206	平日合計
起点	川浦	川浦	奈川渡	川浦	川浦	市立病院	診療所前	川浦	市立病院	奈川渡	学校前	奈川渡	学校前	新島々	
発時刻	6:10	7:00	7:00	8:05	9:20	10:14	10:40	11:43	13:37	16:00	16:10	17:55	18:00	18:39	
終点	新島々	奈川渡	学校前	市立病院	文化センター	川浦	川浦	市立病院	川浦	川浦	奈川渡	川浦	奈川渡	川浦	
着時刻	7:04	7:44	7:25	9:56	10:21	11:38	11:12	13:15	15:01	16:35	16:37	18:36	18:23	19:46	
大人	224	9	0	148	15	42	25	71	58	3	1	8	0	41	645
定期	150	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	154
小人	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
福祉100円パス	17	10	0	986	219	276	181	207	437	8	0	11	0	24	2,376
スクール	0	1,846	372	1	0	0	3	0	0	1,037	306	307	77	0	3,949
合計	391	1,865	372	1,141	234	318	209	278	495	1,048	307	326	77	65	7,126
1便あたり	1.6	7.8	1.8	4.8	1.0	1.3	0.9	1.2	2.1	4.4	1.6	1.4	0.3	0.3	2.2
一般	391	19	0	1,140	234	318	206	278	495	11	1	19	0	65	3,177
1便あたり	1.6	0.1	0.0	4.8	1.0	1.3	0.9	1.2	2.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.3	1.0
便数(運行日数)	240	240	205	240	240	240	240	240	240	240	196	240	240	240	3,281

1便あたり3人/便未満の便

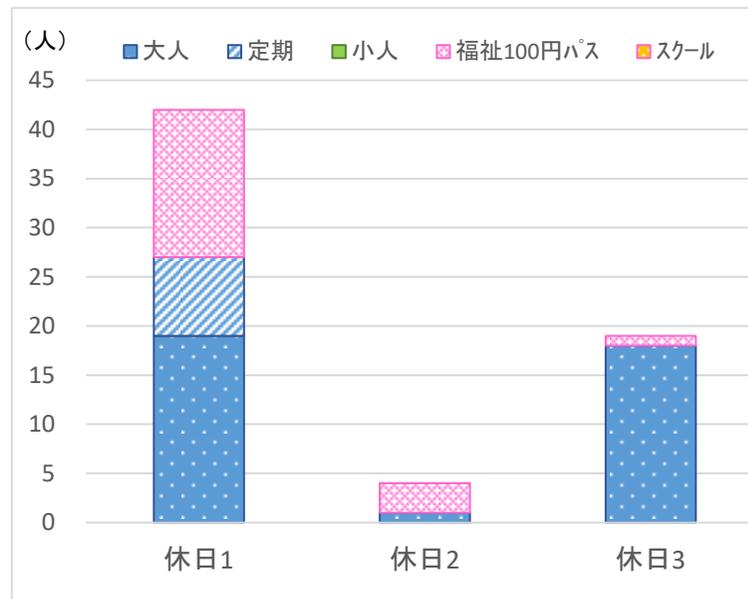


- 便ごとの利用者数をみると、102、103、204便が多くなっています。この3便以外はいずれも1便あたり3.0人/便を下回っており、いわゆるバス車両以外でも対応可能な需要量であるといえます。
- 102、スクールA、204、スクールP、205便はスクール利用が主となっています。奈川地区中部にある奈川小中学校へ地区の北側と南側から児童生徒が利用しています。
- 地区外への移動に最も利用されているのは、103便の市立病院行きであり、4.8人/便の利用がありますが、帰宅便となる202便、203便の利用はそこまで多くありません。奈川地区からみるといわゆる“行き”の移動量の方が多く、“帰り”については、別の手段で帰宅してと考えられます。

3. 便別の利用傾向 2

■ 便別利用者数 (2) 土休日

属性	休日1	休日2	休日3	休日合計
起点	川浦	奈川渡	奈川渡	
発時刻	8:05	13:37	17:55	
終点	市立病院	川浦	川浦	
着時刻	9:07	14:54	18:36	
大人	19	1	18	38
定期	8	0	0	8
小人	0	0	0	0
福祉100円パス	15	3	1	19
スクール	0	0	0	0
合計	42	4	19	65
1便あたり	1.1	1.3	1.0	1.1
一般	42	4	19	65
1便あたり	1.1	1.3	1.0	1.1
便数 (運行日数)	37	3	20	60



- 土休日については、従来より利用者数が少ないことから、予約制の運行を行って来ました。1年間の利用者数は**65**人です。
- 8:05発の市立病院行きが運行日数が多く、その分利用者数も多くなっていますが、1便あたりの利用者数はどの便も1人をやや上回る程度にとどまります。

4. 停留所別の利用傾向 1

■ 停留所別利用者数(令和3年度)

バス停	一般		スクール		合計	
	乗車	降車	乗車	降車	乗車	降車
1 川浦	3	3	0	0	3	3
2 保平上	3	4	0	1	3	5
3 保平	114	66	1	253	115	319
4 奥神谷	91	69	0	0	91	69
5 神谷	60	35	0	0	60	35
6 下神谷	28	25	11	197	39	222
7 坂ノ曽	14	58	0	0	14	58
8 野麦峠スキー場	8	21	0	0	8	21
9 運動広場前	1	0	2	0	3	0
10 奈川高原入口	3	6	2	3	5	9
11 曾倉	29	54	0	0	29	54
12 寄合渡	180	97	1,823	890	2,003	987
13 丸中前	0	0	0	0	0	0
14 大平	3	8	0	0	3	8
15 曾倉沢	0	2	11	3	11	5
16 追平	7	6	0	0	7	6
17 金原	45	49	0	0	45	49
18 金原下	39	30	0	0	39	30
75 山菜館	5	6	1	0	6	6
19 奈川小中学校前	26	18	1,346	2,215	1,372	2,233
20 文化センター夢の森前	2	7	380	26	382	33
21 古宿	201	174	0	0	201	174
22 学校口	1	0	0	4	1	4
23 黒川渡	233	122	370	355	603	477
24 奈川温泉	36	35	2	0	38	35
25 小黒川橋	0	0	0	0	0	0
26 下道	0	2	0	0	0	2
27 診療所前	264	258	0	0	264	258
28 黒川渡下	0	2	0	2	0	4
29 古宿下	6	7	0	0	6	7
30 中地川	5	3	0	0	5	3
31 田ノ萱上	1	0	0	0	1	0
32 田ノ萱	0	2	0	0	0	2
33 入山	0	0	0	0	0	0

バス停	一般		スクール		合計	
	乗車	降車	乗車	降車	乗車	降車
34 入山口	0	0	0	0	0	0
35 奈川渡ダム	48	34	0	0	48	34
36 五嶺沢	0	0	0	0	0	0
37 駒雲崎	0	0	0	0	0	0
38 水殿ダム	0	1	0	0	0	1
39 梨の木平	1	0	0	0	1	0
40 宮の沢	229	12	0	0	229	12
41 稲核仲町	19	14	0	0	19	14
42 稲核	19	24	0	0	19	24
43 稲核口	10	1	0	0	10	1
44 稲核ダム	3	0	0	0	3	0
45 安曇小中学校前	1	1	0	0	1	1
46 安曇支所前	56	49	0	0	56	49
47 島々・徳本峠入口	57	20	0	0	57	20
48 野沢	2	0	0	0	2	0
49 発電所前	222	8	0	0	222	8
50 大野田遊園地前	146	101	0	0	146	101
51 前淵	37	35	0	0	37	35
52 新島々	92	478	0	0	92	478
60 八景山公民館	19	13	0	0	19	13
61 滝御堂	1	2	0	0	1	2
62 上手町	3	1	0	0	3	1
63 花見	1	18	0	0	1	18
64 花見下村	16	0	0	0	16	0
65 神田川	2	0	0	0	2	0
66 神田川口	46	17	0	0	46	17
67 上丸田	1	0	0	0	1	0
68 丸田公民館	3	0	0	0	3	0
69 丸田	10	3	0	0	10	3
70 丸田団地	1	0	0	0	1	0
71 押出	0	0	0	0	0	0
72 波田文化センター	1	5	0	0	1	5
73 波田駅	784	1,103	0	0	784	1,103
74 松本市立病院	4	133	0	0	4	133
合計	3,242	3,242	3,949	3,949	7,191	7,191

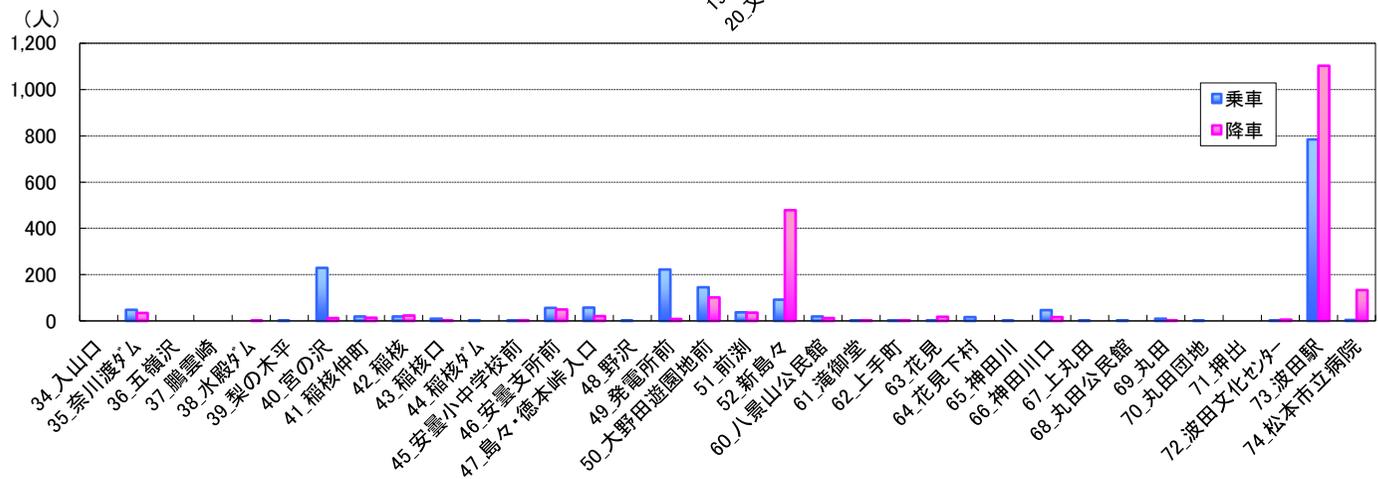
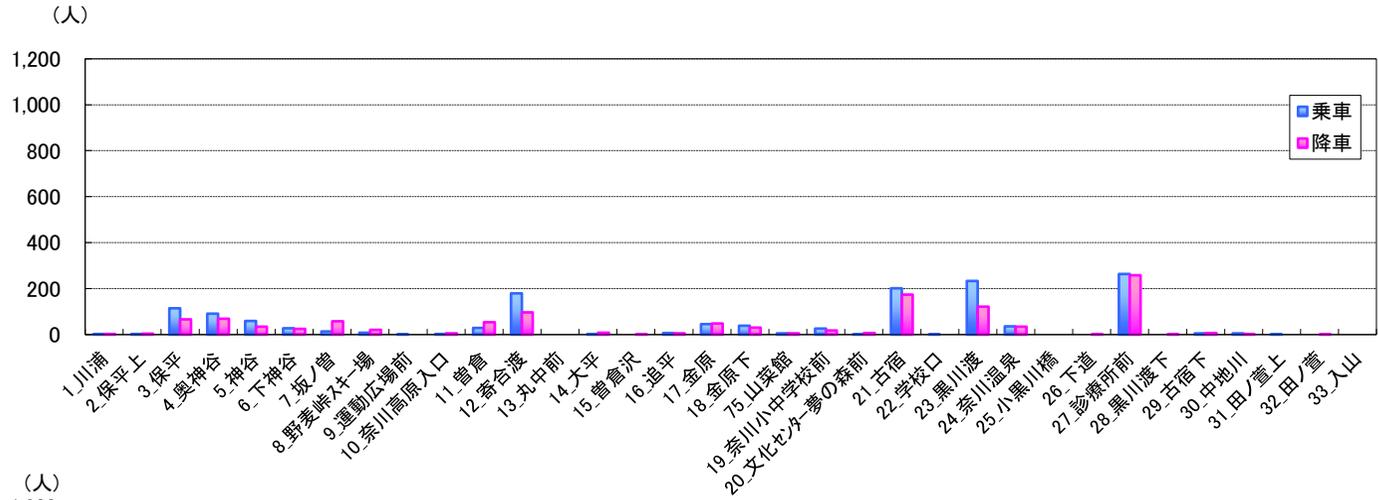
□ : 利用者が多い

- 一般利用者の多くは波田駅で降車しており、波田駅周辺への移動が地域にとって重要な移動であることが分かります。
- また、地域内においては、奈川診療所（診療所前）への移動が多くみられます。
- 宮の沢、発電所前などでは乗車が降車を大きく上回っています。これらのバス停は、アルピコ交通上高地線等の路線とも重複していることから、帰りについては、アルピコ交通の路線バスを利用していることも考えられます。
- 波田駅と新島々は降車数の方がかなり多く、地域内各地からの目的地移動があるとみられます。

4. 停留所別の利用傾向 2

■ 停留所別利用者数(令和3年度)

一般利用のみ



6. 利用状況のまとめ

市営バス奈川線の利用状況をまとめて以下に示します。

利用状況	<p>[総括]</p> <ul style="list-style-type: none">• 年間の利用者数は7,191人で、1便あたり2.15人/便とさらに減少し、利用者数は前年度比92%となりました。• このうち、スクール利用が55.2%、一般利用者は44.8%です。ともに前年度より減少しています。 <p>[利用の特徴]</p> <ul style="list-style-type: none">• 101便は高校生が1名、黒川渡から松本市街地まで通学に利用しています。• 102便とスクールAは奈川小中学校への登校便として利用されています。スクールAは奈川小中学校が休校の場合、運行していません。• 204便とスクールPは奈川小中学校からの下校便として利用されています。下校時刻については、学年等によって差があるため、205便、106便での下校もみられます。• 103便は「川浦」から「松本市立病院」へ運行している便で、松本市立病院や波田駅周辺の商業施設への移動に利用されています。地域の人々の移動としては、103便で波田駅周辺に移動し、202便か203便で帰宅しているものと考えられますが、全体として奈川地区から行き便の利用者が多いのが特徴です。
利用における課題	<ul style="list-style-type: none">• スクール利用者が毎年減少しつつあります。現在、奈川小中学校の児童・生徒数は21人で、今後も少子化の進行とともにスクール利用者は減少していくと見込まれます。• 一般利用者の減少も続いています。令和2年度は新型コロナウイルスの影響で一般利用がさらに減少しましたが、今年度もコミュニティバスのような回復がみられずさらに減少が続いています。• 令和元年度実績では、利用者1人あたりの運行経費（松本市負担額）が約1,700円/人となっており、西部地域コミュニティバス等と比較しても経費が高くなっています。• 1便あたり3.0人/便に満たない便が多くみられます。
改善方針	<ul style="list-style-type: none">• 地域の人口減少及び高齢化により一般利用者、スクール利用者とも減少傾向にあります。一方で、運転手の確保など運行の維持についても課題が顕在化しています。• 観光用ダイヤとなっているアルピコ稲核線と合わせて検討することで、少しでも無駄のない運行に見直せる可能性があります。また、新島々から先はコミュニティバスC線や波田循環バス等で代替できる可能性を検討します。• 一部の便を除いて1便あたりの利用者数は3.0人/便以下となっており、小型車両による輸送でも対応可能な移動量となっています。タクシー事業者がいないため、地域のNPO等による自家用有償など地域にあったより小規模の移動手段の確保についても検討を始める必要があります。また車両についても、車両を現在のマイクロバス、コンピューター（13人乗）から8人乗のミニバンに切り替えることにより、地域の女性などがドライバーとして活躍できる可能性が考えられます。

市営バス奈川線乗務員ヒアリングを踏まえた見直し提案事項

見直し事項	概要
土休日の予約制の運行を土曜のみとする	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度の利用者数は65人/年 ・土休日便は利用前日の17時まで予約可能であり、インターネット等を見て予約する観光客もいる可能性があるため、いつ勤務となるか予測が難しく、働き方として辛い。
入山への経路を廃止する	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度の利用者数は0人/年 <p>※利用の要望があり次第、再度経路の検討を行う。</p>
106便（18：00学校前発→18：23奈川渡ダム着）を17：50学校前発とする	<ul style="list-style-type: none"> ・206便（18：39新島々発）の出発までの時間的余裕がない。
循環1（9：20川浦発→10：04奈川渡ダム着）の川浦発を9：10とする	<ul style="list-style-type: none"> ・アルピコ交通上高地線（10：08奈川渡ダム発→10：35新島々着）の接続に対し、時間的余裕がない。